

I-(3) 大学図書館の位置づけと役割

筑波大学大学院図書館情報メディア研究科教授
永田 治樹

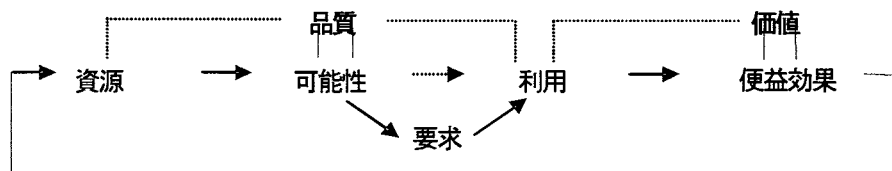
1. よい図書館とは（図書館の良さとは）

R. H. Orrによれば、図書館サービスの良さ（goodness）の判定は、二つの問いに委ねられる。

サービスはどのような状態か

そのサービスはどのような良さをもたらしているか

最初のものは「品質（quality）」に関する問いで、二つ目は「価値（value）」についてである。前者サービス品質を評定する基準は、サービス対象である利用者のニーズとの適合（可能）性に関わり、後者のサービスの価値は、費用を提供する立場から見た、図書館の利用から生じる便益効果（beneficial effects）によって判断される。



R. H. Orr のモデル

ここで議論する図書館の役割は、品質の問題にも関わらないわけではないが、主として後者の領域におちる。

: 大学図書館には、どのような価値が求められているのか、どのような便益をもたらす必要があるか

2. 大学図書館の役割を規定するもの

2. 1 「大学図書館の基本的な役割」（『学術情報基盤としての大学図書館等の今後の整備の在り方について（中間報告）』）

「大学図書館は、大学本来の目的である高等教育と学術研究活動を支える重要な学術情報基盤であり、大学にとっては必要不可欠な機能を持つ大学の中核を成す施設である。そこでは、大学において行われる教育、研究に関わる学術情報の収集、蓄積、組織化が行われ、蓄積された学術情報は、検索可能な形で公開されることにより、社会の共有財産となる。これらの学術情報の活用により、大学は、教育や社会貢献活動を通じて人材養成に貢献するとともに、一層の研究活動を促進する。この知のサイクルにより、学術情報は大学の教育研究活動を一層活性化するという特徴を持つ。

教育の側面からみると、大学の教育はそもそも教室における講義と、その前後における学生自らの学習をあわせて成り立つものであり、学生が図書資料を活用しながら自ら学習する場として、大学図書館の役割は極めて重要である。これらの教育研究支援が大学図書館の学術情報基盤としての基本的な役割である。」

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gi_jyutu/gi_jyutu4/toushin/05071402.htm

2. 2 個別の大学での使命宣言（関西学院大学の「大学図書館の理念・目的・教育目標」）

大学図書館は、本学の掲げる教育・研究の理念・目標を支えるための基盤的な施設として、図書、雑誌およびその他の学術情報を収集・整理・保存し、教職員・学生等の利用者に対して迅速かつ的確に提供し、また、図書館報やホームページ等を活用して、図書館で生産される「知」の情報を有効に学内外に発信することを理念および使命とする。大学図書館は、この理念と使命の実現を通じて、大学の教育・研究の進展に寄与し、その成果をとおして社会の発展に貢献することを目的としている。

大学図書館の理念と使命にもとづく目標は次のとおりである。

1) 学術情報の収集機能の一層の強化を計る

近年急速に普及してきた電子ジャーナルやオンラインデータベース等の電子媒体資料を、従来の紙媒体資料とともに一層充実し、本学の教育・研究からのニーズに迅速かつ効果的に応えていく。

2) 電子図書館的機能の充実を計る

ネットワーク社会の進展を背景として、大学図書館の学術情報の受信・発信基地としての役割はこれまで以上に重要なものとなる。そのため、学術ポータル構築を行うことなどによって電子図書館的機能の強化を計り、教育・研究に対して一層の支援強化を行う。

3) 利用しやすい機能的な図書館を目指す

利用しやすい機能的な大学図書館を目指して、施設・設備面および管理運営の改善と工夫に一層努める。学生の自学自習活動のための快適な空間の創出と情報リテラシー教育を中心とした利用教育のさらなる充実を計っていく。研究者に対しては国内外の学術情報の迅速かつ的確な提供機能の強化に努める。そのために他大学・機関との連携を一層強化していく。さらに、本学の教職員・学生が、大学図書館の保有する図書・資料等の学術情報を媒介として、「知的交流・創造の場」として生き生きと活用することができるような工夫を行う。本学図書館では、ほぼ全蔵書の全面開架方式を採用し、書架に隣接してさまざまな閲覧座席やグループ閲覧室を設置しているが、これらを使って教職員・学生が共同して教育・研究活動を行い、その成果を図書館ホールで発表するなど、知的な交流と創造が行える環境整備により一層努めたい。

4) 開かれた図書館への取り組みを強化する

本学では地域に開かれた大学として、さまざまな社会貢献プログラムを政策として打ち出している。これに連動して、大学図書館としては本学中高等部生、卒業生および一般市民への図書館開放や、近隣の公共図書館との連携を一層強化するなど、社会貢献への模索を続けていく。

付：図書館の使命について（米国大学図書館協会（ACRL）高等教育機関における図書館基準（Standards for Libraries in Higher Education））

「図書館は、図書館活動の枠組みとしてミッション・ステートメントと目的を持っている。図書館の使命（ミッション）と目的は、機関の使命・目的に沿いそれと整合してはならない。図書館の品質や有効性についてのアセスメントは、機関特有の使命と目的とに密接に結びついている。機関の枠組みの中で図書館はそのプログラムとサービスを展開するために、機関全体の立案過程に関わる必要がある。戦略計画の公式の立案手順やその過程がしばしば活用される。その立案の過程では、機関を構成するコミュニティのさまざまな部署からのインプット（意見）が求められる。ビジョンと使命を明確に定義し、目的と目標を設定し、特定の戦略や最終目標を達成するよう配慮した行動方針を遂行して機関が将来に備えるのに、それらは役立つ。戦略計画の立案は、評価、

更新、改善を反復するプロセスである。このプロセスは、コミュニティの本質的な価値に焦点を当て、日々の活動と決定を導く全体的な方向を示す。」

求められる価値、あるいはその様態の変化

→ 大学図書館の使命・目的の再確認（環境変化に応じた戦略計画の再構成）

3. 大学図書館の位置づけの修正

大学図書館環境（学術コミュニケーションの変化や高等教育の拡大）が、図書館の位置づけを求めている。

3. 1 学術コミュニケーションのサブシステム（情報基盤）として

デジタル化による学術流通システムの変化 → 図書館の位置づけとサービスの変容

3. 2 高等教育機関としてのサブシステム（教育基盤）として

大学改革による認証評価（大学図書館の位置づけ）

大学図書館の位置づけは、どのように変化しているかを確かめておく必要がある。

この変化のあり様は、その大学の活動の様態によってかなり大きな違いがある。つまりそれぞれの大学の戦略計画は差異が生じる。

図書館を教育の基盤として使う！という趨勢は拡大したが、定着したかどうか

情報リテラシー教育

教育・学習用の情報の確保

場としての教育機能

4. 大学図書館サービスが提供する価値とは？

改めて、図書館サービスが構成する価値とはなにか（さまざまな価値を付加するか）、また、そのためにどのような手立て（専門的なツールと専門職）が必要かを考慮すべき段階

4. 1 バリューチェーン

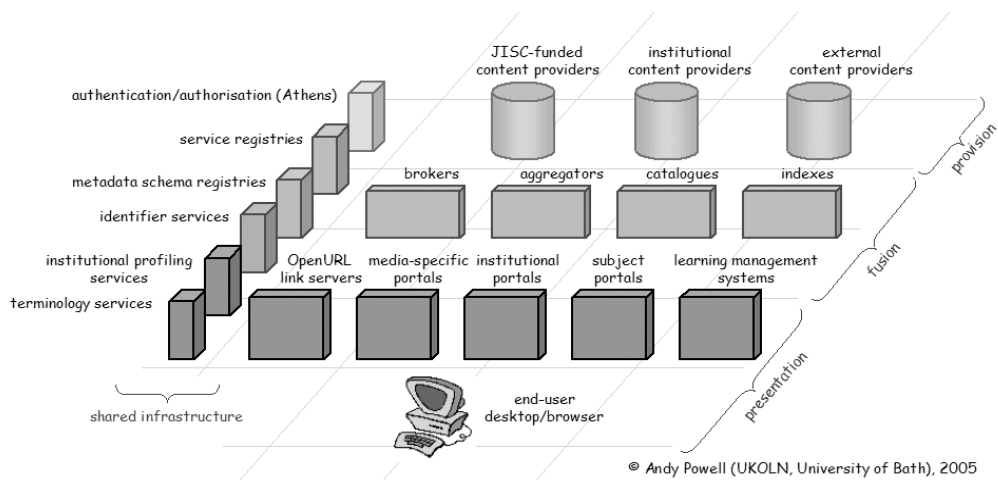
図書館が提供する価値のうち、多くのものは、図書館において構成されるものではない。

図書館は外部に存在する価値をとりこみ、それに付加価値を賦与して、それを顧客に提供している。基本的に外部に存在する価値をとりこんだバリューチェーンの形成にあたっているといい。しかし、バリューチェーンの形成方法が大きく変化した。

図書館におけるバリューチェーン（M. E. ポーターによる調達／開発／製造／販売／サービスといったそれぞれの業務が、一連の流れの中で順次、価値とコストを付加・蓄積していくものにとらえ、この連鎖的活動によって顧客に向けた最終的な“価値”が生み出されるとする考え方によるが、さらに進めて、組織の枠を飛び越え、外部の経営資源を活用した「ビジネスモデル」のあり方）とはどのようなものとなるのか

4. 2 具体的な課題 (まとめにかえて)

★図書館における情報環境の設定 (JISC IE: Andy Powell の構図)



<http://www.ukoln.ac.uk/distributed-systems/jisc-ie/arch/jisc-ie-arch-big.gif>

★場としての図書館

Malcolm Brown. *Learning Spaces*. <http://www.educause.edu/LearningSpaces/6072>

Saltire Centre (Glasgow Caledonian University) <http://jp.youtube.com/watch?v=RkQ6M5UjuRY>

